岡山のとしょかん
岡山県図書館協会報
（第 132 号）

岡山県図書館協会 創立70周年

小川洋子氏記念トークショーを振り返って

令和 3 年 10 月 24 日（日）、岡山県立図書館において、岡山県図書館協会創立 70 周年記念行事が開催されました。メインイベントとして、芥川賞作家で国際的にも評価の高い小川洋子氏をお招きして、記念トークショーが開催され、お話の内容は図書館の存立の意義にせまるものとなりました。

まず、小川氏による講話がありました。講話で小川氏は、県立図書館の近くで生まれ育ち、このあたりの風景には子どもの頃の思い出がつまっていると紹介。さらに小中学校を通して、最も大きな影響を与えた場所は、学校の図書室とのことです。中学生になって図書室は重要な役目を果たす場所となり、そして、作家になったきっかけの運命の本『アンネの日記』と出会ったそうです。本の中のアンネと言葉を交わし心を許す関係になり、一番の親友になっていったといいます。図書室の中にいると、無条件で自分が受け入れられている、人間が、頭でとらえた理屈を超越した先にある真理に触れること、それが、読書の喜びだとのこと。図書室での時間が、小川氏を作家へと導いたと言えるとのこと。図書室は、それほど大切な意味深い場所だったと述懐されました。

そして、図書館について考えるときのエピソードを紹介してくださいました。それは、イタリア人の科学者で作家のプリーモ・レーヴィが『アウシュビッツは終わらない』で述べているものです。厳しい強制労働の中、アルザス出身の学生ジャンから、イタリア語を教えてと頼まれたレーヴィはダンテの『神曲』からオデュッセウスの歌を教えたのです。そして確かにジャンが自分の言いたいことをくみ取ってくれたと感じます。たとえ人間扱いされないアウシュビッツでも、徳と知を求めることを忘れなければ、人間でいられる、この時レーヴィ自身が、図書館だったと言えると述べられました。図書館は、人間が人間であることを証明するための存在であると言うのです。

その後のトークショーでは、小川氏に 3 人の図書館員がそれぞれ質問をしていきました。まず、倉敷市立水島図書館の奥田鈴美氏が、小川氏のラジオ番組で紹介する本の選び方について尋ねたところ、スタッフで集まって選ぶとのお答え。そして、読みたい、紹介したい本が世の中にはあふれているとのことでした。

吉備国際大学附属図書館の森脇美穂氏からの学生時代に心がけていたことはという質問に、自分にあった本を手あたり次第に読むことと教えて下さいました。

岡山市立芥子山小学校の西村百代氏が、学校の図書室のありかたについて質問。子供たちには、生きている人間だけが、救いになるんじゃない、小説に出てくる架空の人物や、すでに亡くなっている誰かによっても救われるということを伝えたいとのことでした。さらに小川氏は、そういったことは保健室の役割も合わせもっていたとのことでした。

小川氏の講話とトークショーを通して、図書館の持つ根源的な意味、人間を人間たらしめる働きが図書館にあることを確認でき、図書館職員でよかったと思うと同時に身が引き締まる思いになりました。

（創立70周年記念事業運営委員長　金光英子）

創立７０周年記念事業（報告）

令和3年10月に岡山県図書館協会は創立70周年を迎えました。それを記念して、「図書館へ行こう」をテーマに様々なイベントを行いました。

■記念トークショー

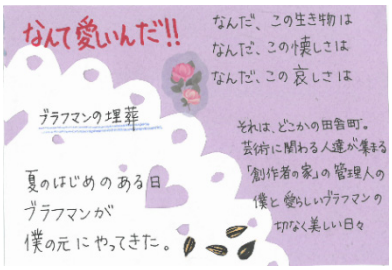
日　時：令和3年10月24日（日）
　　14:00～16:00
会　場：岡山県立図書館
参加者：57名
出　演：小川洋子氏（作家）
県内図書館職員出演者：
［進行］
金光英子氏（創立70周年記念事業運営委員長）
『ラジオ番組「Melodious Library」について』
奥田鈴美氏（倉敷市立水島図書館・館長）
『大学生の頃に心がけていたことについて』
森脇美穂氏（吉備国際大学附属図書館）
『アンネ・フランクについて』
西村百代氏（岡山市立芥子山小学校）

【講話】

講　師：小川洋子氏（作家）
定員60名程度を大幅に上回る300名の応募があり、関心の高さがうかがえました。

【ＰＯＰコンテスト表彰式】

小川洋子賞



黒瀬三保子氏
（一般の部）

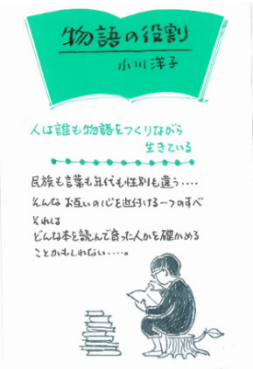
黒住真由さん
（児童生徒の部）

岡山県図書館協会長賞

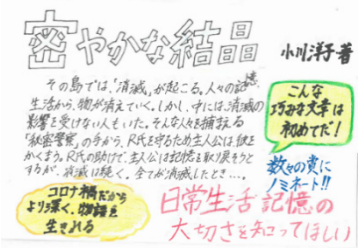
林智子氏
（一般の部）

大園花也子さん
（児童生徒の部）

創立70周年記念事業運営委員長賞



皆木由紀子氏
（一般の部）



杉本祐さん
（児童生徒の部）

■ＰＯＰコンテスト

募集期間：令和3年6月1日（火）～9月1日（水）

対象資料：小川洋子氏の著作作品

応募総数：112点（一般の部：54点、児童生徒の部：58点）

■ものがたりであそぼう！

日　時：令和3年8月8日（日）13:30～14:30

会　場：岡山県立図書館

対　象：小学校低学年（※保護者同伴可）

参加者：26名（保護者を含む）

講　師：昼田弥子氏（児童文学作家）

昼田氏の著書「ほんとはスイカ」の読み聞かせとワークショップを行っていただきました。ワークショップでは、文字カードを使ったしりとりなど、ことば遊びを行い、参加した子ども達は楽しい時間を過ごしました。

■バリアフリー映画上映会

タイトル：博士の愛した数式（原作：小川洋子）

日　時：令和3年9月5日（日）14:00～16:00

会　場：真庭市立中央図書館

参加者：21名

なお、8月29日（日）に岡山県立図書館で予定していた上映会は新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止となりました。

■パネル展示

例年、県立図書館フェスタで使用している図書館紹介パネルに大学図書館のパネルを加え、「図書館へ行こう！」をテーマに令和3年10月16日（土）から12月19日（日）まで岡山県立図書館のエントランス西口通路にパネル展示を行いました。

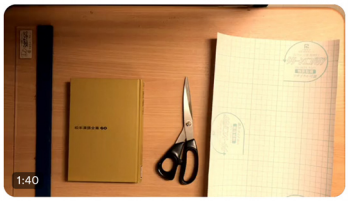
■岡山県図書館協会創立70周年後援事業

創立 70 周年記念の気運を盛り上げるために開催される事業等を対象にした後援事業の募集を行いました。その結果、県内3事業を後援し、館種を超えたPRを行うことができました。

■創立70周年記念誌発刊（予定）

創立60周年記念誌に続く、創立70周年記念誌を現在、作成中です。完成まで今しばらくお待ちください。

図書館の SNS 発信



［ブッカーかけの動画］

［おかやままなびとサーチ］

【笠岡市立図書館】

笠岡市立図書館では、平成 29 年 9 月から Twitter の運用を開始しました。当初はイベントなどの情報発信が多かったのですが、コロナ禍で市民とのコミュニケーションが取りづらくなり、【今日の笠岡市立図書館の司書】、【図書館なにしょーるん？】というタイトルで、日々の業務の発信を始め、意外と好評を得ていました。そのような中、「ブッカーかけ」の動画が急に注目を集めたのです。この投稿は「1.7 万いいね」という信じられない反響がありました。投稿のきっかけは小学生からのリクエストでしたが、この 2 年間の地道なツイートがここに繋がったのではないかと考えています。

気になる方は、笠岡市立図書館 Twitter か「おかやま まなびとサーチ」でご覧ください。「美しいお仕事に感動です」「ずっと見ちゃう」など賞賛していただいた、普通のブッカーかけの動画を見ることができます。

［図書館アカウント］

（笠岡市立図書館　原田恭江）

【岡山市立図書館】

岡山市立図書館では SNS による情報発信を行っています。以前より中央図書館と西大寺緑花公園緑の図書室が Facebook と Twitter を、幸町図書館が Twitter を行っていましたが、令和 3 年より浦安総合公園図書館も Twitter を開始しました。

［Twitter ページの様子］

日頃から行事の案内やテーマ展示・連携展示の紹介、館内の様子等を発信していますが、特に昨年は西大寺緑花公園緑の図書室のファジアーノ岡山応援展示を紹介した所、多くの反響を頂き、図書館に足を運ぶきっかけにもなったようです。また、こどもの読書週間のイベント「モモから本がとび出した！！～大すきな本　大募集～」では、みなさんにおすすめの本をモモ型の用紙で紹介してもらい、SNS にも掲載し好評を頂きました。

コロナ禍で臨時休館となった期間にも、休館中の予約資料の貸出サービスのお知らせや、季節の本の紹介を行いました。

今後とも楽しい情報発信を続けていきたいと思います。皆さまのフォローをお待ちしています。

（岡山市立西大寺緑花公園緑の図書室　青地麻里）

【赤磐市立図書館】

赤磐市立図書館では 2016 年（平成 28 年）から Facebook を開設しておりましたが、だんだんと閲覧者も減ってきていたので、2020 年（令和 2 年）から Instagram も開設して少しでも多くの方に情報発信をして、図書館に興味を持っていただくことを目的に始めました。

発信の方法は簡単で、写真があれば大丈夫です。Facebook と合わせて編集ができるので、写真を貼り付け、コメントを入れるだけです。今は毎月のイベント開催情報やコロナ対応情報、館内掲示や様子など、できるだけ多くの発信に努めています。

まだ運用を始めて 1 年ぐらいなので、今後も、多くの方に見てもらえるような Instagram にしていきたいです。

（赤磐市立中央図書館　安本典生）

［Twitter ページ］

岡山県立大学附属図書館
～特集：インフォグラフィック～

［展示の様子］

本学附属図書館では、2 ヶ月毎に様々なテーマで特集展示を行っています。11 月・12 月は「インフォグラフィック ： 情報を伝えるかたち」と題した特集でした。小テーマとして「伝統文様（日本・中国・ヨーロッパ）」「家のしるし（家紋・紋章・商標）」「マーク（アイコン・シンボル・ピクトグラム）」に資料を分けて展示しました。東京 2020 オリンピックでピクトグラムが話題になったこともあり、情報を伝えるための表現に注目してもらうのがねらいでした。本学にはデザイン学部があり、パッケージデザイン・タイポグラフィ・広告レイアウトなどデザインに関する資料を多く所蔵しているため、所蔵資料をさらに知ってもらう目的もありました。

また関連として、1848 年刊の『紋切形』（楓川市隠著， 渓斎英泉画）に掲載されている「紋形」という紋のひな形を、実際に折り紙で作成し展示しました。「紋形」について紹介するにあたり、本学では原書を所蔵していないため、国立国会図書館デジタルコレクション公開資料を参考にしました。

今後も学生の興味関心を引くような展示を工夫していきたいと思います。

（岡山県立大学附属図書館　田中智子）

セカンドブックの取り組み

［セカンドブックのセット］

【一本と出会うきっかけ一】

令和 3 年度は勝央町のセカンドブックが始まって 4 年目です。平成 30 年 4 月から健康福祉部と協力して開始しました。

勝央町では、町の 3 歳児健診の流れにセカンドブックを組み込み、愛育委員の誘導にしたがって対象親子に本を手渡します。子どもは、図書館が用意した 3 冊の絵本の中から 1 冊を選びます。すばやく「これ！」と指さす子。保護者と相談し迷いながら選ぶ子。どの子も本を受け取るときらきらした笑顔を見せてくれます。

きっかけは、「第 2 次勝央町子ども読書活動推進計画」作成時でした。委員から「身に付けた読書習慣を高校生以降も継続するような一貫した取り組みが必要」という意見から成長に沿った段階的なアプローチとして、まずはブックスタート後のセカンドブックから始めようとなりました。

進学するにつれて興味の選択肢も、時間の余裕がない子どもも増えます。時間を見つけ自分で読む楽しみを体験することで読書習慣を身に付けてほしいと思います。コロナ対応によりこの 2 年間は、図書館でセットをお渡ししています。会場の時と変わらず本を選ぶ子どもの顔は輝いています。

これからも本との出会いのきっかけになるよう取り組んでいきたいと思います。

（勝央図書館　関瞳）

【鏡野町セカンドブック　～「読んでもらう」から「読書」へ～】

鏡野町では、令和 2 年度よりセカンドブック事業を開始しました。町内の小学 1 年生を対象に、秋の読書週間前に、1 冊の本にメッセージとオリジナルのしおりを添えて贈ります。

事業開始のきっかけは、図書館を利用される保護者の方々、そして小学校の先生方から、「子どもたちは本が好き。読んでもらうのも大好き。でも、自分で読むとなったらなかなか…。」という声をよく聞くようになったことでした。ちょうどその頃、私たち図書館員も、自分で読む本を選ぶことができない子どもたちが増えてきていると感じていたところでした。

「読んでもらう」から「読書」への移行。それを子どもが自然にできるよう支援することが、鏡野町セカンドブックの第 1 の目的です。そこで、ひらがなの学習を終えて読書ができるようになり、読書週間がある秋に、本を贈ることを決めました。そして、読書は選ぶところから楽しみが始まるので、あらかじめ図書館員が選定した 5 冊の中から、1 冊を選んで申し込みをしてもらうようにしました。また、家庭での読書推進が第 2 の目的のため、ご家族にも関心を持っていただけるよう、申し込む本は家族で一緒に選んでいただく形にしています。

本は、1 人ずつ名前の書いてある封筒に入れて贈ります。申込書の配付から本の受け渡しまで、全て学校を通じて実施するため、学校側のご協力があっての事業です。セカンドブックで選んだ本で読書の楽しさを知り、子どもたちがいろいろな本に興味を持つきっかけにしてくれることを願っています。

（鏡野町立図書館　福島久美子）

令和３年度岡山県図書館協会研修参加助成事業報告書

研　修　名：第107回全国図書館大会
山梨大会（オンライン大会）
期　　日：11月11日（木）～12日（金）

記念講演「対談　これからの出版と図書館」
対談：堀内　丸恵氏（集英社会長）、金田一　秀穂氏（山梨県立図書館長）

山梨県立図書館長の金田一氏が、山梨県出身の堀内氏へインタビューする形式で対談が行われました。堀内氏が集英社へ入社したきっかけや出版という仕事の魅力、出版と図書館の関わり方、本のデジタル化といった様々なトピックについて、率直な意見交換がなされました。

対談中、堀内氏が述べた「色々な方に読書の機会を提供するという点において、図書館と出版社は目的を同じくする仲間である。本に触れる機会は（社会の中で）様々な形で存在する方が良い。」という旨の発言が印象に残っています。図書館と出版社が互いの事業を尊重し、文字・活字文化振興の担い手として、協力して社会に貢献していくことが、両者にとって重要であると感じました。

第１１分科会・障害者サービス（１）
利用者にとってアクセシブルな電子書籍とは

基調講演では、専修大学文学部教授・野口武悟氏から、電子書籍の市場規模や各地の図書館における利用状況について、また障害者サービスの観点から電子書籍に今後期待することについてお話がありました。事例発表では、千葉県立西部図書館における電子書籍作成事例（主にパソコン等で読み上げ可能なテキストデータ作成）について、これまでの成果と今後の課題について説明を受けました。また実演では、現在各地の図書館で利用割合の高い３つの電子書籍サービス（KinoDen、TRC-DL、OverDrive）について、実演と解説がなされました。

電子書籍の持つ手軽さや利用場所を選ばない性質から、電子書籍はアクセシブル＝誰にでも利用しやすいもの、と思われがちです。しかし、障害者サービスの観点から見ると、必ずしもアクセシブルとは呼べない部分が残されています。そのため、図書館で電子書籍サービスを導入する際には、各製品の特徴等をよく知り、導入館の求めるアクセシビリティを実現することが可能かどうか、十分な検討と評価が必須になるとのことでした。

第１１分科会・障害者サービス（２）
読書バリアフリー法における各図書館の役割

基調報告では、日本図書館協会障害者サービス委員会委員長・佐藤聖一氏から、今年１年の障害者サービスについて、現状と新たな取り組み等に関する報告がありました。地方公共団体ごとの読書バリアフリー計画の策定・実施に遅れがみられること、また障害者サービス全般の問題として、新型コロナウイルスによる実施サービスの変化が指摘されました。報告（１）では、鳥取県視覚障害者等の読書環境の整備の推進に関する計画について、報告（２）では、日本図書館協会の作成した、各都道府県が独自の読書バリアフリー計画を策定する際の「指針」について、ポイントや注意点の解説がありました。対談では、ボーンアクセシブルな電子書籍の実現に向けて、具体的な手順が示されました。

第１１分科会の受講は、「アクセシブルな図書館サービス」について再考する良い機会となりました。瀬戸内市民図書館では、図書館利用に障害のある方に向けた利用案内の作成や、障害者サービスについての職員研修の実施などにより、利用環境の充実に取り組んでいます。今回の学びを基に、「誰もが使いやすい図書館」について、今後も模索を続けたいと思います。

（瀬戸内市民図書館　水島望）

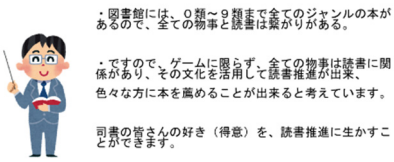
県図協セミナー（第２回）に参加して

「図書館とゲーム」
期日：令和 4 年 1 月 28 日（金）参加者：19 名
講師：高倉　暁大氏　（ゲーム司書）

以前から図書館や読書に関心のない子に興味を持ってもらうためにどうすれば良いかと思い参加しました。

今講座は、Zoom によるオンライン形式の開催でした。講師の高倉氏は、アバターの姿で登場され、はじめに中高生は、心と体のギャップを感じる時期であり、自分自身をアバターとしてバーチャル体験することで、コミュニケーション能力が普段の姿より高くなることについて、岩波ジュニア新書の『こころと身体の心理学』から説明されました。その技術体験を地方の若者たちにも都市部と変わらないようにとの思いで活動されていると紹介されました。そして、図書館のイメージを「好奇心を刺激し、色々な情報（資料）を提供して、より良い人生を送ってもらえるような場所」とご自身の考えを述べられ、各国の図書館で行われている色々な支援やサービスのひとつとして取り入れられている「ボードゲーム」の事例を紹介されました。ゲームを好きな人達が集まることでコミュニティが生まれ、本から情報を得るのが苦手な子どもも人伝で情報を得ることができ、居場所として図書館の役割が出来ること。また、ゲームの主題や内容に興味を持つことで、その世界観を求めて本を手に取りやすくなるのではないかとゲームと本の繋がりを話されました。図書館でゲームをどう活用すれば良いのかについて、各図書館の企画とお話会などの活用例を基に図書館としての目的や目標の設定が重要なことやデメリットと実際にあった失敗例を紹介されました。勤めている図書館の現状や規模などを考慮した取り組みが必要だと感じました。

ゲームに限らず、全ての物事は読書に関係し、その文化を活用して読書推進や色々な本を薦めることが出来るからこそ、司書の好きなことや得意なことを生かせるのではないかと励みになる言葉を頂きました。



［講座の様子(左)］

［アバターで登場された講師(右)］

最後に他の参加者と一緒に辞書を使ったゲーム「図書館たほいや」を行い、ゲームの楽しさと進め方を体験しました。

誰にでも利用してもらえる図書館として、新たな役割が発見でき将来の広がりが見えた講座でした。　（井原市立井原中学校　津島一視）

事務局からのお知らせ

【訃報】
秋田　征矢雄　氏(元金光図書館職員)
令和 3 年 5 月 21 日御永眠　享年 90 歳
謹んで御冥福をお祈り申し上げます。

■令和 3 年度企画委員

令和 3 年 12 月 22 日（水）に第 1 回企画委員会を開催しました。今回をもって委員の皆様の任期（2 年）は終了となります。9 名の皆様、大変お世話になりました。

■異動調査

本年度も例年通り異動調査を行います。所属・住所等の異動があった方は事務局までご連絡ください。また、入会・退会をご希望の方も併せてお知らせください。

令和 4 年 3 月 1 日発行
〒700-0823 岡山市北区丸の内 2－6－30
岡山県立図書館　図書館振興課内
岡山県図書館協会　会長　中本　正行
TEL：086－224－1269